

平成 20 年 1 月 29 日	病虫害発生予報 2 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！
薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
促成キュウリ：べと病，褐斑病	1
施設野菜（イチゴ，ピーマン，トマト，キュウリ）：灰色かび病	2
【その他の病虫害】	2
イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ	
. 病虫害ミニ情報	
水稲種子伝染性病虫害の防除対策について	3
. 今月の気象予報	
	5
. テレホンサービス	
	5
0 2 9 (2 2 6) 5 3 2 1	

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 20 年 1 月 24 日現在のものです。
農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病虫害防除所 Tel :029-227-2445
予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

促成キュウリ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在，発病葉率は平年並で，発生地点率は平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されることから，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

多湿条件下での伝染力が高いので，十分に換気しハウス内を除湿する。

発生の少ないうちに，防除を徹底する。

新たな伝染源とならないよう，病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。

薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

2. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
-	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在，発病葉率，発生地点率ともに平年よりやや高い。

気象予報によると，向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されることから，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

多湿条件下での伝染力が高いので，十分に換気しハウス内を除湿する。

発生の少ないうちに，防除を徹底する。

新たな伝染源とならないよう，病斑部は取り除いてハウス外に持ち出し処分する。

薬剤は，十分な量で丁寧に散布する。また，耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

施設野菜(イチゴ,ピーマン,トマト,キュウリ)

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

1月下旬現在,促成トマトで平年並からやや多く,促成ピーマン,イチゴ,促成キュウリで,平年並の発生である。

気象予報によると,向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されることから,ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので,換気,送風,暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

発生の少ないうちに,防除を徹底する。

発生した場合は,発病部位を取り除き,ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤散布は,薬液が乾きにくくなる午後からは行わず,晴れた日の午前中に行う。また,曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は,くん煙剤を利用する。

薬剤は,十分な量で丁寧に散布する。また,耐性菌の出現を防ぐため,系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量:平年並	1月下旬現在,平年並の発生である。
	コナジラミ類	発生量: 平年並~やや多い	1月下旬現在,平年並からやや多い発生である。
	ハダニ類	発生量: 平年並~やや多い	1月下旬現在,平年並の発生である。生育前半の発生が多かったため,今後の発生に注意する。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量: 平年並~やや多い	1月下旬現在,平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されることから,ハウス内は発生を助長する条件になりやすい。
	アザミウマ類	発生量:平年並	1月下旬現在,平年並の発生である。
促成 キュウリ	菌核病	発生量:やや多い	1月下旬現在,平年よりやや多い発生である。

水稲種子伝染性病害虫の防除対策について

種子は毎年更新することが基本ですが、自家種子を使用する場合は種子消毒を徹底してください。種子伝染性病害虫として、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、イネシンガレセンチュウ等があります。これらを防除するためには、良質の種子を用いて、適切な管理を行い、苗を健全に生育させることが重要です。

1. 種子消毒の方法

【採種ほ産種子（消毒種子）の場合】

採種ほ産種子（消毒種子）には、モミガードC・DFとスミチオン乳剤が処理されており、改めて種子消毒を行う必要はない。浸種の際は、種もみ1kgに対して水4リットルとし、3日間は水を換えないようにする（次ページ作業の流れとポイントの浸種以降参照）。

【自家種子、採種ほ産種子（未消毒種子）の場合】

自家種子の場合は、種子伝染性の病害虫が発生していない水田から採取した健全なもみを使用する。

- (1) 温湯処理：60 の温湯で 10 分間の浸漬処理により、いもち病、ばか苗病、イネシンガレセンチュウ等を防除することができる。ただし、処理水温・時間は正確に行い、処理後は水中で速やかに冷却する等の注意が必要である。
- (2) 生物農薬：平成 20 年 1 月 24 日現在、表の薬剤が農薬登録されている。使用方法により適用病害虫が異なる場合があるので注意する。
- (3) 化学農薬：薬剤は表を参考にする。処理方法は、浸漬、塗沫、湿粉衣がある。利用できる処理方法は薬剤によって異なるので注意する。

表 種子伝染性病害虫に適用のある主な種子消毒剤（平成 20 年 1 月 24 日現在）

病 害 虫 薬 剤	ばか苗 病	いもち 病	ごま葉 枯病	もみ枯 細菌病	苗立枯 細菌病	褐条病	イネシ ンガ レセン チュウ	苗立枯 病(リゾー ブス菌)	苗立枯病 (トリコデル マ菌)
スホ [®] ルタック乳剤									
トリフィン水和剤									
ヘルシード [®] 水和剤									
スターナ水和剤									
スホ [®] ルタックスターナ SE									
テクリート [®] C フロアブル									
モミガード C・DF									
スミチオン乳剤									
エコホップ(生)									
エコホップドライ(生)									
エコホップ DJ(生)									
タフロック(生)									
モミゲン沖水和剤(生)									
エコホップ水和剤(生)									

注) 1 使用にあたっては、農薬のラベル等をよく読み、使用基準を確認する。

2 種子消毒に用いた薬剤も農薬の総使用回数にカウントされる。

3 スミチオン乳剤については、製造会社により稲に登録が無い場合があるので、注意する。

4 表中薬剤名の後の(生)は生物農薬を示す

2. 播種までの作業の流れとポイント

塩水選

種子消毒の前には塩水選を行って、充実した良質のもみを選別する。塩水は、うるちでは比重 1.13 (水 10 リットルに対し食塩約 2.7 kg または硫安約 3 kg)、もちでは比重 1.08 (水 10 リットルに対し食塩約 1.7 kg または硫安約 1.8 kg) に調整する。
塩水選後は沈んだ種もみをよく水洗いし、水を切って塩分をできるだけ取り去る。

種子消毒 (薬剤処理)

浸漬処理

種もみと薬液の容量比は 1:1 以上とする (めやすは種もみ 1kg に薬液 2 リットル以上)。袋をよくゆすり、種もみ表面に薬剤を均一に付着させる。長時間浸漬 (5 時間以上) の場合は、浸漬中に薬液を 1~2 回攪拌する。薬液から引き上げた種もみは水洗いせず日陰に広げて 24 時間程度放置し、種もみに薬液を乾燥・固着させる (薬剤によって乾燥・固着が不要なものもある)。
水温は 10~15 とする。低すぎると、薬剤の効果が低下する場合がある。

塗沫処理

適当な容器内で種もみを攪拌しながら薬液を滴下するなどして、種籾を均一に付着させる。

湿粉衣

種もみが湿った状態で薬剤を均一にまぶす。
塗沫処理、湿粉衣とも、ポット型コンクリートミキサー等を用いると均一に処理できる。

浸種

流水中では薬剤が洗い流されてしまうので、バケツやコンテナ等に溜めた水に浸漬する。河川、ため池などで行わない。

種もみと水の容量比は 1:2 とする (めやすは種もみ 1kg に対して水 4 リットル)。水を交換する場合は、3 日以上経過してから上澄みを静かに流し、新しい水を追加する。水温は 10~15、水温積算温度 (水温×日数) で 100~120 (水温 10 で 10~12 日間) とする。めやすは「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」は 120、「ゆめひたち」は 110、他の品種は 100 である。ここで十分に浸種しないと、出芽が揃わない原因となるので注意する。

催芽

催芽の程度は、出芽を揃えるために必ずハト胸状態とする。
催芽や出芽時の高温条件は、病害の発生を助長するので、加温条件は 28~30 程度とし、必要以上に高めないようにする。ハウスや日の当たる場所で管理すると、昼間は予想以上に水温が高くなる場合があるので注意する。

播種

播種量が多すぎると病害の発生を助長するので適正な播種量を守る。
病原菌のない用土や資材を用いることも必要である。

育苗

育苗中に発生する病害の対策として、種子消毒と併せて育苗中は適正な温度・水管理を行って、苗の健全な育成を心がけることも大切である (これらについては次回以降に掲載予定)。

留意事項

種子消毒の残液、廃液および容器・器具などの洗浄に使用した水は適正に処理してください。
かんがい水路、排水路、河川、湖沼などの水系には流さないでください。

・今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 1月26日から2月25日)

気象庁(1月25日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	20	40	40
日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

天気は、数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨または雪の日が多い見込みです。

< 1週目の予報 > 1月26日(土曜日)から2月1日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

< 2週目の予報 > 2月2日(土曜日)から2月8日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

< 3週目から4週目の予報 > 2月9日(土曜日)から2月22日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

2月上旬 施設野菜病害虫の防除対策について

2月下旬 果樹類の休眠期防除と果樹カメムシ類の発生予想について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。